



るうてる

箱崎群教会共同体版

一月報 メッセージと証し

発行 日本福音ルーテル箱崎教会
 代表者 牧師 和田 恵明
 〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3
 TEL (092) 641-5440
 FAX (092) 641-5480
 メールアドレス wada@jelc.or.jp
 箱崎教会・恵泉幼稚園 <http://www.jelc.or.jp/hakozaki>
 奈多愛育園 <http://nata.aiikuen.net/> CLICK

主は人の一歩一歩を定め、御旨にかなう道を備えてくださる。
 人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。
 (詩編37編23節/新共同訳『聖書』旧約聖書P 869)

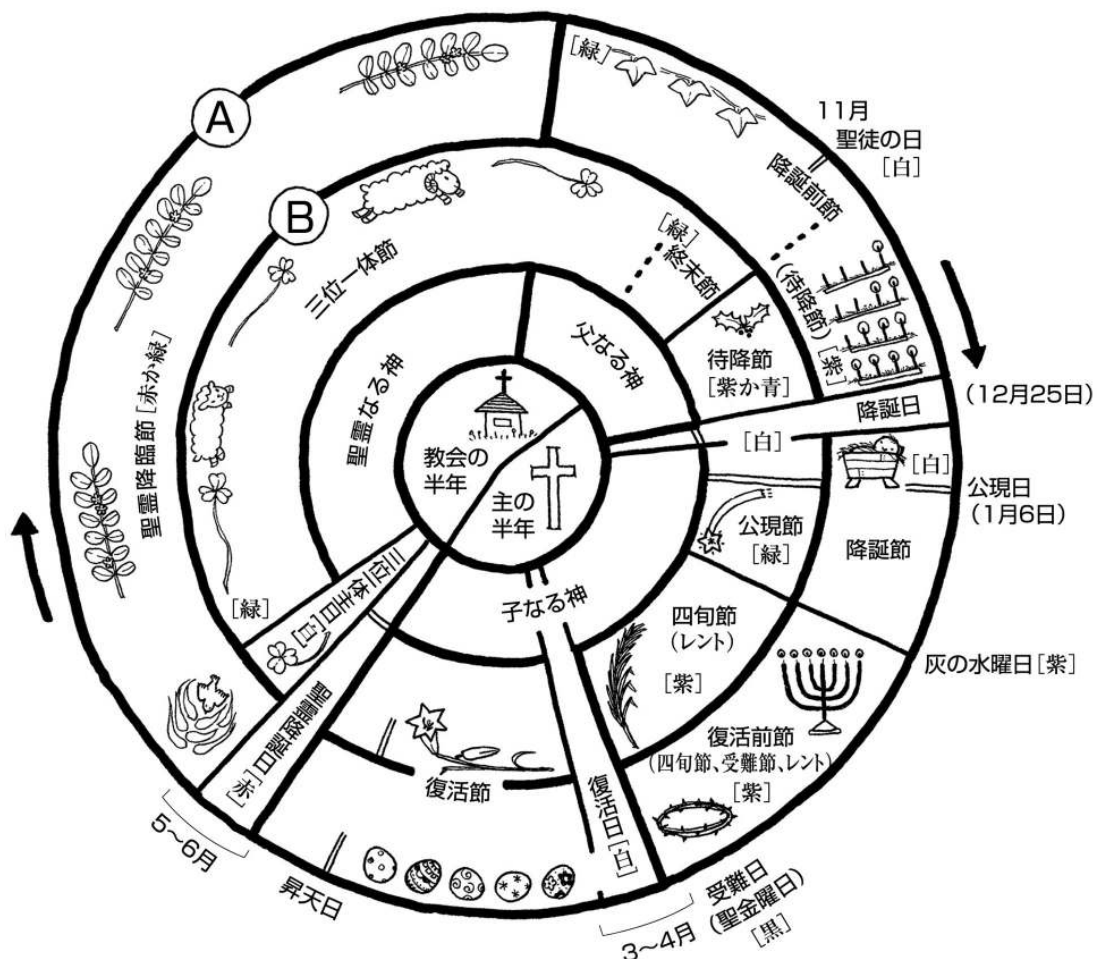
「色、変わったねえ。」(典礼について)

和田 恵明

礼拝堂に子どもたちが入ってくると、「色、変わったねえ。」とつぶやくことがある。聖壇の布の色の变化に敏感だ。ルーテル教会は、カトリック教会や聖公会の教派と同じように、礼拝式の中で典礼を重ねる。聖壇の布の色を典礼色といい、教会暦(以下の図)にしたがって、その時の礼拝が持つメッセージの目的、性格を、色をもって象徴的に表現する。

四色ある。紫は、十字架のキリスト、悔い改め、王の尊厳を表す。白は、神の栄光の輝きを表す。赤は、聖霊の働きを表す。緑は、希望と成長を表す。順に、たとえば子どもたちの礼拝の際、紫の時は、「お友だちにごめんなさい、とは素直に言えないものだよねえ。」・・・などと神さまと向き合い、自分の心に気づきを与えるようなお話しを。白は、イースター、クリスマスなどに用いられるので、うれしい気持ちで、神さまやイエス様のすばらしさを語る。また赤の時は聖霊だから、見えない神さまの働きが、僕らの背中をそっと押してくださるようなお話しを。緑の時は、木々の色だから、僕たちの心の成長を神さまは見守ってくださるよ、というメッセージに心がけた。

今年は、2月22日(水)に「灰の水曜日」を迎える。神の被造物である人間が塵から生まれ、塵に帰ることを覚えるが、この日から四旬節(レント)が始まる。4月8日(日)復活祭(イースター)までの40日間(その間の日曜日6回を除く)、典礼色は紫。主の贖いの十字架に思いを馳せる悔い改めの期節である。こうして、教会の暦は一年で一巡りする。礼拝を通じて冒頭のみ言葉のとおり、「主は、人の一歩一歩を定め、御旨にかなう道を備えてくださる…主がその手をとらえていてくださる」。



望みも消え行くまで

片嶋 美加



夫の料理学校入学をきっかけに、8年ぶりに仕事を始めた。新しい環境と生活リズムにストレスを感じ体調をこわすことが多かった。体がきついとき「なぜ私はこのような生活を選んでしまったのだろう。他にもっと良い方法がなかったらどうか。」と悩んだ。毎日祈り続ける中、ある日心に浮かんだ賛美歌があった。「望みも消えゆくまでに」だった。“悩みの中にあるとき、また重荷を背負いきれず心沈むとき、神さまの恵みを数えてごらん”という内容の歌だ。私は、この賛美歌を歌いながら涙がこぼれそうになった。

「こんなにつらいときに神さまの恵みを数えるの？神さまの恵みなんて見つけれない」と思った。ところが、「数えよ主の恵み、数えてみよ主の恵み」と歌っているうちに、「私は恵みをいただいているの？気づいていないだけなの？」という思いに変わっていった。そして、とうとう気づいた。「働くための健康も職場も神さまが与えて下さったものだ」と。1つ気づくと次々と見つかった。子どもが病気の時、夫の両親が預ってくれるので安心して働けることや、職場の上司や同僚が親切にしてくれることもすべて神さまの恵みだと気づいた。そして心の中に少しずつ光がさしてきた。気持ちが楽になっていった。結婚して9年近く私が専業主婦として生活できたのは、夫が一生懸命に働いてくれたおかげなのだと感謝の気持ちも生まれた。また、あるときは、仕事の帰りに寄ったスーパーマーケットの駐車場で突然心に「状況を楽しもう」という言葉が浮かんだ。私はその言葉を声に出して言いながら、その意味を考えた。「状況を楽しむ？働いている今だからこそある状況・・・そうだ！！夜のスーパーを楽しもう！！専業主婦のときは、昼間に行ってたから。」それまでの私は、仕事が終わると「疲れた」「忙しい」「時間がない」と焦りや不安だらけだった。ところが、今の状況を楽しもうと決めたときから世界が変わった。いつもと同じはずのスーパーマーケットがキラキラと輝いて見えはじめたのだ。お店の中をよく見ると、たくさんのお客さんたち。昼間とはちがう活気があった。仕事帰りの人も多そう。よく見ると、あれっ？みんなそれぞれに人生の課題を背負っているように見えた。みんな頑張っているんだ。そのことに気づいたとき、なんだか元気がわいてきた。そして、時間がゆっくりと流れているような感じがして、気持ちがおだやかになった。働き始めた頃、疲れて夕食を作ることができず、買って来たお弁当ばかりだったとき、夫が「1品しか作れなかったけど」と言って食べさせてくれた手料理に癒されたことを思い出した。そうだ！！1品でもいいから料理を作ろう！！気持ちが前向きになっていった。去年9月に働き始めて、一時は「望みも消えゆくまでに」沈んでいた私だったが、ふり返ってみると、ここには書ききれないほどたくさんの恵みを受けてきた。聖書の御言葉、ローマの信徒への手紙8章28節「神を愛する者たち、つまり、御計画によって召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」を思う。今の生活を選んだことが正しかったかどうか、その答えはわからない。でも、たとえまちがっていたとしても神さまは万事が益となるように共に働いて道をととのえて下さるのだ。困難を乗り越えることができるよう助けて下さる方がおられる。なんといい恵みだろう！！この数ヶ月間、日々の生活の中で神さまはたくさんの愛を示して下さいました。悲しいときには慰めを、恐れているときには励ましを。そのことを私は決して忘れない。

今、私は、毎日、いろいろなことを通して示される神さまの愛を見つけたいという思いで生活している。でも、もしまた見つけることができなくなったときは・・・大丈夫。そのときはまた神さまが私の心に働きかけて見えるようにして下さるだろう。神さまの愛の大きさ、深さに、ただただ感謝します。

子供を授かって思うこと

奈須 砂智子

私は、平成 21 年 9 月 3 日に長男を平成 23 年 8 月 6 日に次男を出産しました。長男の出産は全てが初めての体験だったため余裕がなく、あれやこれやと言っている内に出産を終えました。二男の時は、心配された案件が少なからずありましたが、二度目の出産ということで気持ち的には少し楽でした。しかしながら、長男の世話をしながらの出産だったため、初産の時とは違った戸惑いがたくさんあり、体力的な厳しさをも感じました。

第二子が誕生すると、第一子の赤ちゃん返りが大変とよく聞いていましたが、こんなにも大変とは思っていませんでした。時にはイラッとして嫌な自分になることもあります。この経験も私を成長させてくれるための神様の御恵だと思うので、怒ったり、落ち込んだりしつつも、感謝しながら日々を過ごせたらと思います。

今現在、子供たちは多くの方々の助けや、見守り、お祈りを頂き、すくすくと成長しているように思います。安らかな寝顔、おっぱいを吸っているときの顔、泣いているときの顔、笑っているときの顔、どれを一つとっても愛おしく感じます。年齢的に遅く授かった子供だからか、私はよく自分が何歳になったら、子供は何歳になっていて、こんな感じで...等と想像してしまいます。先日ラジオを聴いていたら島津亜矢さんの「帰らんちゃよか」という曲が流れてきました。その歌詞が、親元を離れた子を思う親心を熊本弁で綴ってありました。「都会で失敗すれば、いつでも帰ればいいやと弱気になっていないか。私たち（親）のことは心配して帰ってこなくていいから、自分（子供）がやりたいことを頑張れ」というような意味の歌詞でした。子供たちはまだ2歳や、生まれたばかりなのに、自分の子供たちが、遠くに行って頑張ってる姿を想像したら一人前の親になったかのように、涙が出てきました。また、樋口了一さんが歌われている「手紙」の歌詞を読んでも色々と考えさせられました。風呂に入りたがらない長男を追っかけて、色々理由をつけながら風呂に入れたりする日々の生活と「手紙」の歌詞が重なって、私が子供たちのことを認知できなくなった時の淋しさを想像しても涙があふれてきました。でも、実際はまだ先の話であり、今は可愛い二人の子供を授かった幸せをあらためて感じています。これから子供たちがどんな人になって、どんな道を歩いて行くか分からないけど、人のことも自分のことのように心から喜び、悲しめるような、そしてどんな苦難の中でも喜びを見つけられる優しい人になりますようにと祈っています。

